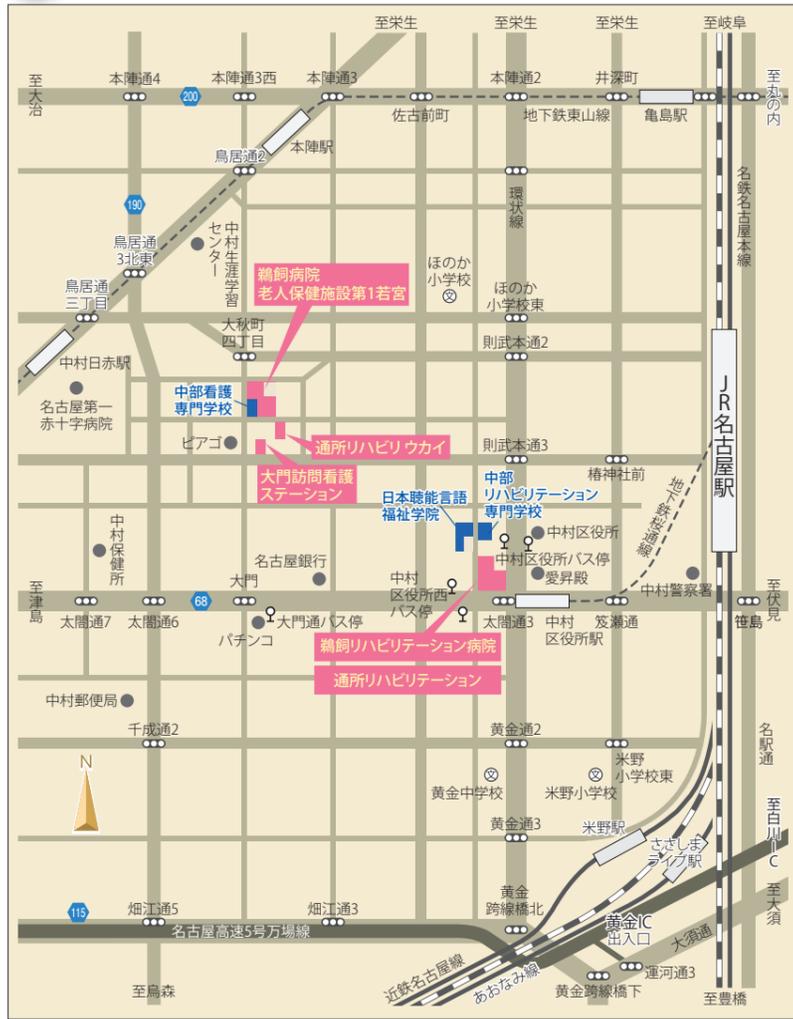


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車……………徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約 5分



当院は、
医療機能評価
認定病院です。

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町 6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町 2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町 2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通 4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー Vol.67

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通 4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/平成31年4月1日

〈特集〉

患者さんが主体的に生活する。
そのためのあらゆる支援を行う。



URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

患者さんが主体的に生活する。 そのためのあらゆる支援を行う。

早川麻依子は、福祉系国家資格である社会福祉士の資格を持つ、医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker:以下、MSW）。大学卒業後、急性期病院に7年間勤務した後、2016年に鶴飼リハビリテーション病院に入職した。「急性期では、入院期間が短く、MSWはその場の困っていることを取り払っていくという介入がほとんどでした。でも回復期は、もっと長い目で患者さんの人生をとらえ、患者さんやご家族に寄り添い、先を見越してサポートします。私の知識や経験が、患者さんやご家族の利益に繋がる。それを忘れず、日々、患者さんやご家族に向き合っています」。



MSW 早川麻依子

疑問や不安、希望までを 入院当日から丁寧に聞き取る。

その日入院する患者さんやご家族に対し、入院説明を終え、患者さんが病室に落ち着いたのを見届けると、早川麻依子はその足で主治医のところに行った。患者さんやご家族の質問を医師に伝え、その回答をもらうためである。



「入院当日、まず患者さんは主治医の診察や検査を受けます。その間に、MSWがご家族と面談し、発症前の生活

や、家庭での患者さんの役割、ご家族との関わり方、生活習慣などを細かく聞き取ります。入院生活や病棟の説明もしますね」と早川は言い、こう続けた。診察後、「患者さんやご家族が揃ったところで、主治医が初回面接として、病気や状態、入院期間などの説明をします。そこにはMSWも同席して、主治医の退室後、患者さんやご家族から質問や希望を伺います」。なぜ主治医の退室後なのか？「入院初日で緊張する患者さんやご家族が、その場で医師に何かを聞くことは、なかなか難しいと思います。ですからMSWが疑問や不安、そして希望までを打ち明けられるよう促し、丁寧に聞き取ります。それを医師に確認し、また患者さんやご家族にお話しします」（早川）。

そして入院2週間以内には、チームカンファレンスが開か



れる。主治医・看護師・セラピスト・MSWなど多職種が集まり、専門的な立場から状況を話し合い共有して、目標や今後のリハビリテーション計画など、チームの方針を決めていく。このときには、早川が聞き取った患者さんの思いや生活背景などの情報が重要になる。そこでの決定事項は、医師が症状説明として患者さんやご家族に説明。このときもMSWは同席し、終了後は患者さんやご家族の理解を確認し、希望や不安の有無などを改めてヒアリングする。



自分が代わりにするのではなく、 患者さん、ご家族が主体的に取り組む。

チームカンファレンスや病状説明は、入院中、月に1回行うのが基本だが、それは一律ではない。患者さんの状況に合わせて随時実施し、それ以外にもMSWの面談を必要に応じて行う。早川は言う。「回復期は、患者さんやご家族の気持ちがおく揺れる時期です。急性期病院では命を取り



留めることが第一ですが、回復期に入りリハビリテーションを行うことで、できることが少しずつ増えていきます。そうすると、ご本人もご家族も、以前はこうしていたから退院後も同じようにしたい、でも実際にどうなんだろう、もしできなかったら…と不安や迷いが出ます。もちろん当院では、最初から回復度合いを予測してリハビリテーションの短期・長期目標を設定し、MSWもそれを把握しています。私たちは、その予測と今の状態を正確に把握し、早め早めにサポートするよう心がけています」。

患者さんやご家族の思いは、退院準備の段階に入るとまた変わるといふ。双方の思いがすれ違うことも、住まう地域の社会資源の問題なども出てくる。そうしたときも、早川たちMSWは、患者さんやご家族の心の内をきめ細かく聞き取り、

解決策を提案していく。「大切なことは、私が代わりに何かをして差し上げるのではなく、患者さんやご家族が、自分で問題を考え、解決していけるようにサポートすることです。MSWは、福祉の面から、患者さんやご家族に寄り添う専門職です。身体上・精神上の障害による苦しみや迷いなどを抱えた方に、制度やサービスの活用など、助言・援助を行い、退院後、ご本人が主体的に生活できるように支える。そして、その過程の情報を他職種に共有するのが仕事です」（早川）。

以前とのギャップを、いかにして 埋めていくかが、MSWの力量。

鶴飼リハビリテーション病院では、全病棟にMSWが配属されている。早川は3階病棟専従。常に35名ほどの患者さんを受け持つ。同じ病棟に勤務する他の職種は、早川をどう見ているのか。

倉地英志医師は言う。「患者さんのなかには、どれだけ頑張っても機能訓練をしても、何らかの障害が残る方がいます。以前のご自分と比べてギャップが生じるわけですが、そのギャップをいかに埋めるかが、MSWの力量といえます。福祉制度や各種サービスなどの提示はもちろん、患者さんやご家族の精神的フォローも行いつつ、現実と希望をどう添わせていくか。実現が無理な場合は、き



医師 倉地英志



ちんと無理ですと伝えなければいけません。早川は、その決断をするタイミングが的確であり、伝え方もうまいです。言うだけでなく、『代わりにこう考え、これを活用してはどうですか』と提案もできる。早川の力量は、患者さんご家族の満足度にしっかり結びついていますね。

これに対し、3階病棟の坂口まなみ看護師長は言う。



「早川は3階病棟で貴重な存在です。というのは、患者さんご家族の情報を一番持っているから。特にご家族の情報が重要なんです。私たち看護師は、患者さんの意見が自分たちの基本ですが、それはご家族の意見と異なることが多々あります。そうしたとき早川は、患者さんご家族が何度も話し合いが持てるよう働きかけをし、双方が納得した退院先、生活の仕方を選べるように持っていく。そう仕向けるのではなく、問題点を見つけ出して、それをほぐしていくんですね。その調整力は、急性期病院からの入院相談、そして迅速な入院受け入れといった面でも、大きく発揮されています」。

MSWは対人援助職。 困ったときは一緒に考えましょう。

MSWは、入院時から退院まで、患者さん・ご家族と多職種、多職種間を繋ぐ存在であり、また、退院後の生活への道筋をつける存在でもある。そうしたMSWを「ひとことと言えば、対人援助職ですね」と、早川の上司であり医療連携部部長である河合秀樹（MSW、社会福祉士）

は言う。医療職は、疾病や障害を中心に考える場合が多くなりますが、MSWの仕事は<人>を全体的に見なければ成り立ちません。その人を見て、取り巻く環境も含め情報収集し、その人の課題を可視化する。それを患者さん・ご家族と共通理解し、制度や各種サービスを使って解決したり、緩和させたり、家族関係の調整なども行う。だから<対人>なんです。では、どんな姿をめざしているのか。河合は言う。「私たちは、障害を持った方が、安心して社会生活や家庭生活に戻るための道具であり、社会資源（※）です。困ったことがあったら一緒に考えましょう、というのが私たちの本意。胸を張ってそう伝えることができるように、MSW一人ひとりの成長を促していきたいと考えます」。

※厚生労働省の『医療ソーシャルワーカー業務指針』によると、MSWは<療養中の心理的・社会的問題の解決>、<調整援助>、<退院援助>、<社会復帰援助>、<受診・受療援助>、<経済的問題の解決、調整援助>、<地域活動>の7つを行う者を指す。

「当院のMSWは、患者さん、ご家族、地域の関係者のニーズの把握は、本当にしっかりやります。そのための知識・技術の習得には貪欲ですね。そして、ニーズをチームに発信する力も大きい。これは職種間の垣根が低く、なおかつ、どの職種も患者さんの退院後の生活に焦点を当てているから。MSWからだけではなく、互いに働きかけて、情報を共有していきます。私自身、急性期の経験を持つことを強みとして、若いMSWや他の職種のスタッフを、主体的に牽引していきたいと思っています」。

早川麻依子。10年のキャリアを持つMSWである。



MSW 河合秀樹

For the Best Rehabilitation

Topic 1

支持と教育で専門性を高める<グループ・スーパービジョン>

同院では、MSWに対して、年次ごとに達成目標を課すラダー教育を行っている。キャリアを重ねるごとに、より高度な技術を身につけていくのが目的だ。また、一方で、<グループ・スーパービジョン>と呼ばれる事例検討会にも力を注いでいる。

グループ・スーパービジョンとは、一人のスーパーバイザー（指導者）が複数のスーパーバイジー（指導される人）



に対して、自らの実務経験を活かし、適切な助言や指導を行うもの。目的は、面接技術を用いたアセスメント（面接や観察、調査などを行い、患者さん・ご家族の問題を解決する力や、こういった制度や社会資源を活用できるかを分析、評価するプロセス）内容が的確かどうかを確認し、不十分な点を指導すること。過去の事例をもとに検討を進めていく。

ここでの指導は、支持と教育の二つ。「大丈夫ですよ、できています」という支持的機能と、「こういう方法もありますよ」という教育的機能である。前者は若手にとっては自信をつけさせ、後者は新たな気づきを与えるとともに、部署のMSWが多数参加することで、部署内の共通認識、共通知識を付加することに繋がっていく。

本編で紹介した早川は、スーパーバイザー。逐一質問を入れながら、「ではもう一度、今後どうやっていきますか？」という、最後の結語まできちんと求めながら若手の成長を図っている。

Topic 2

MSWが急性期病院・施設とともに協議する<連携>

同院のMSWは、院内における患者さん・ご家族の支援に加え、同院が患者さんを受け入れる先である急性期病院や、同院を退院後に生活の場となる介護系施設などとの<連携>を推進する活動にも注力している。

その一環として、同院は、連携する全病院にMSWが向かい、それぞれの連携担当者と話し合いを行うことで、先方の状況の把握、問題点の協議などを進め、より良い連携関係へと繋げている。また、最近では、他病院のMSWと合同で勉強会を開催、顔の見える関係を作りながら、互いの知識・技術の向上をめざす取り組みも始まった。

一方、介護系施設とは、連絡事項の徹底や情報交換を重ねるとともに、サービス担当者会議にも参加。同院が紹介する患者さんの今後の生活について、一緒に協議を行うことで、患者さんが、同院を退院した後も、安心して生活を送ることができるよう努めている。

MSWは、他施設との連携を通じ、同院の入院期間だけでなく、患者さんの人生を俯瞰し、医療と医療、医療と介護の連携の円滑化をめざす。それは、決して簡単なことではないが、自らの部署での能力発揮、向上だけでなく、もう少し広い視点でMSWのあり方を、学び、身につけていくよい機会となっている。



珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、 患者さんやご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせて、 専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせて、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと 同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
 - 健康状態の確認（メディカルチェック）など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が 職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑顔が、職員の励みになっています。

これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

- 理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション
- 日常生活の援助
（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）
- 在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。 退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00
（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。